



ベニズワイガニ（日本海系群）①

ベニズワイガニは日本海、オホーツク海、銚子以北の本州太平洋沿岸に広く生息し、本系群はこのうち日本海の本州沿岸に分布する群である。漁業の違いにより、大臣許可水域（東経134度以西の鳥取県から島根県の地先と沖合漁場）と知事許可水域（青森県から兵庫県の各県地先）に分けられる。

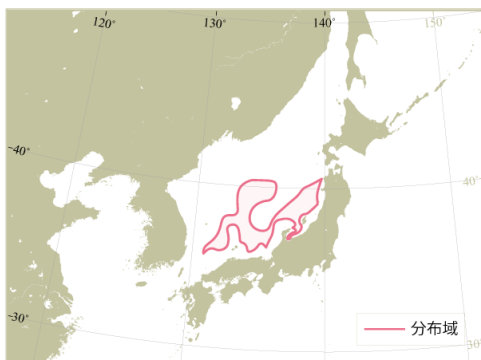


図1 分布域

水深400～2,700mに広く分布し、分布の中心は1,000～2,000mである。

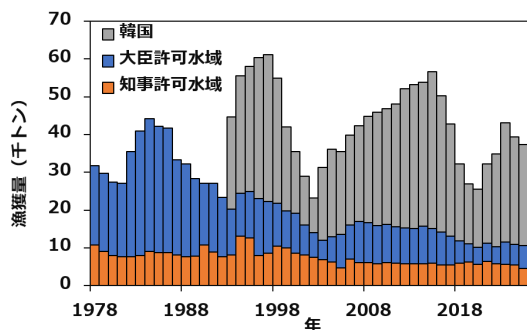


図2 漁獲量の推移

大臣許可水域では2015年以降は減少傾向が続いたが、2023年以降は増加に転じ、2025年は6,117トンであった。

知事許可水域では2007年以降6,000トン前後で推移しており、2025年は4,535トンであった。

韓国の漁獲量（1992年以前の漁獲量は不明）は2016～2020年に減少したが、その後は増加に転じ、2025年は26,756トンであった。

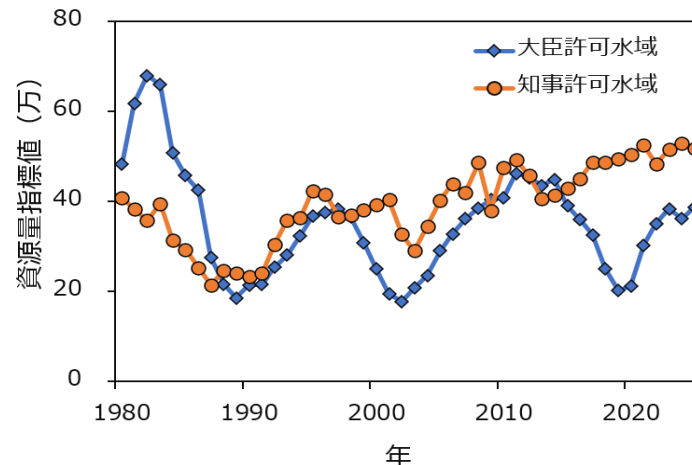


図3 資源量指標値の推移

各水域の資源量指標値として、漁獲量の大半を占めるかご漁業の単位努力量当たり漁獲量（CPUE）を標準化した値と漁場面積を乗じた値を用いた。

大臣許可水域の資源量指標値は2015年以降は大きく減少したが、2020年以降増加に転じ、2025年は38.8万であった。知事許可水域の資源量指標値は2004年以降は緩やかな増加傾向にあり、2025年は51.7万であった。

ベニズワイガニ（日本海系群）②

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって「令和8（2026）年度 漁獲管理規則 およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。本系群は2つの海域（大臣許可水域・知事許可水域）を別に評価しているため、それぞれの海域について適用した結果を示す。

大臣許可水域

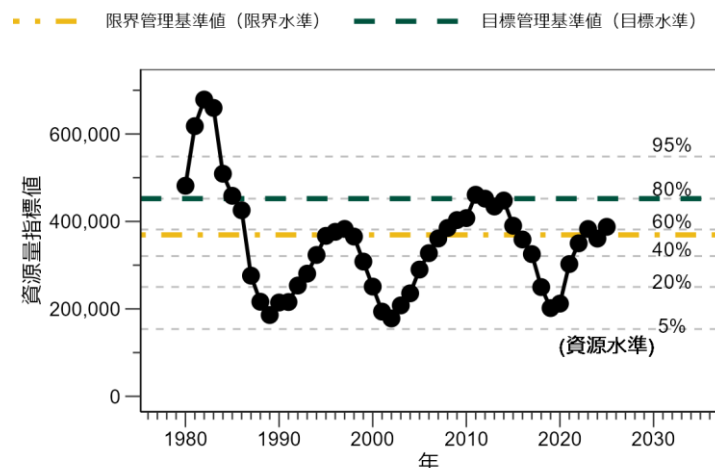


図4 資源水準および管理基準値

標準化CPUEと漁場面積の積により求めた値を資源量指標値（黒線）とし、資源水準に基づいて80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）とする。

2025年の資源量指標値（38.8万）は61.9%水準に相当するため、目標管理基準値を下回った。

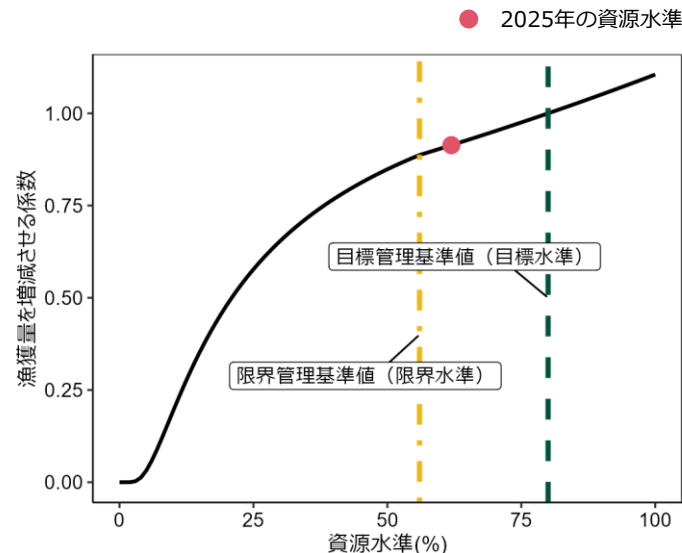


図5 漁獲シナリオ

資源水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲シナリオを示す。資源水準が目標管理基準値（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2025年）の資源水準（61.9%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は0.914であった。

ベニズワイガニ（日本海系群）③

大臣許可水域

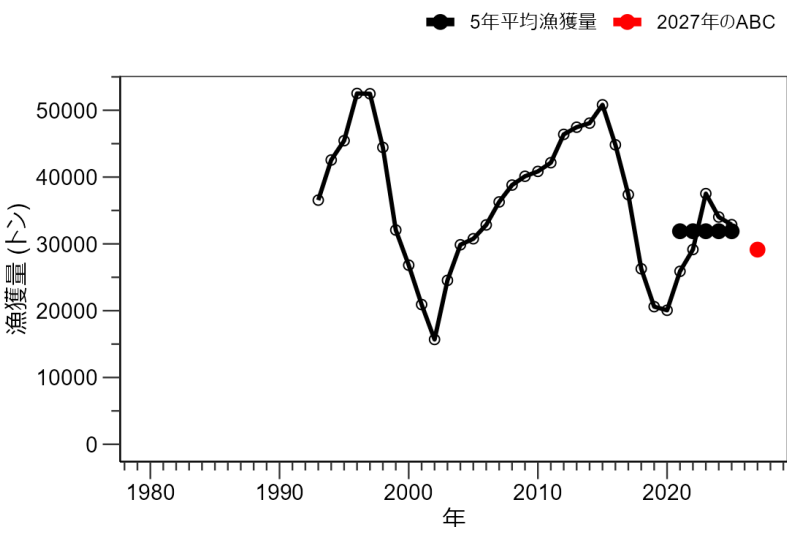


図6 漁獲量の推移と2027年のABC

直近5年間（2021～2025年）の平均漁獲量（黒丸、31,891トン）に2025年の資源水準から求めた漁獲量を増減させる係数（0.914）を乗じて算出される2027年のABCは29,138トン（赤丸）となった。なお、この平均漁獲量は日本の大臣許可水域と韓国の合計値を用いた。

	資源水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値
目標管理基準値（目標水準）	80.0%	1.000	452,096
限界管理基準値（限界水準）	56.0%	0.887	369,249
現状の値（2025年）	61.9%	0.914	387,603

資源量指標値の推移から求めた資源水準と目標管理基準値および限界管理基準値との位置関係に基づき漁獲量を増減させる。
2025年の資源水準は61.9%であり、漁獲量を増減させる係数は0.914となった。2027年のABCは29,138トンと算出された。

ベニズワイガニ（日本海系群）④

知事許可水域

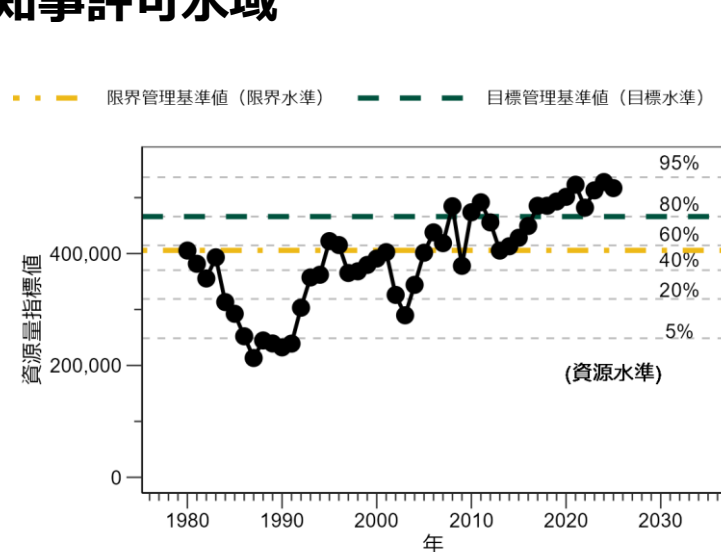


図7 資源水準および管理基準値

標準化CPUEと漁場面積の積により求めた値を資源量指標値（黒線）とし、資源水準に基づいて80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）とする。

2025年の資源量指標値（51.7万）は92.3%水準に相当するため、目標管理基準値を上回った。

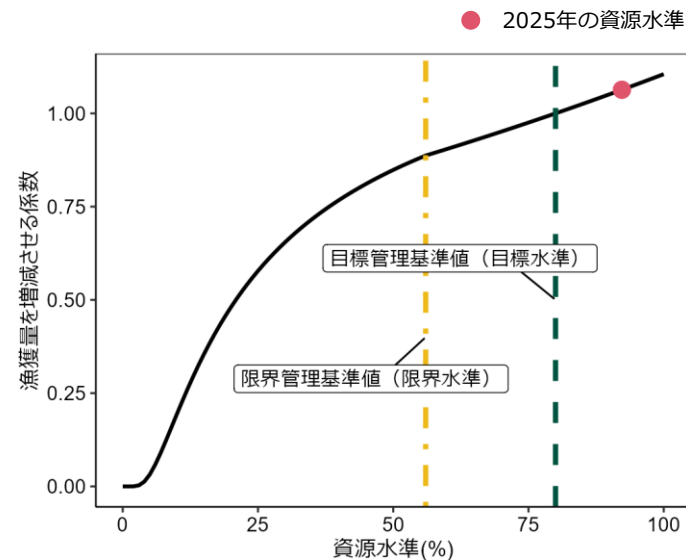


図8 漁獲シナリオ

資源水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲シナリオを示す。資源水準が目標管理基準値（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2025年）の資源水準（92.3%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は1.063であった。

ベニズワイガニ（日本海系群）⑤

知事許可水域

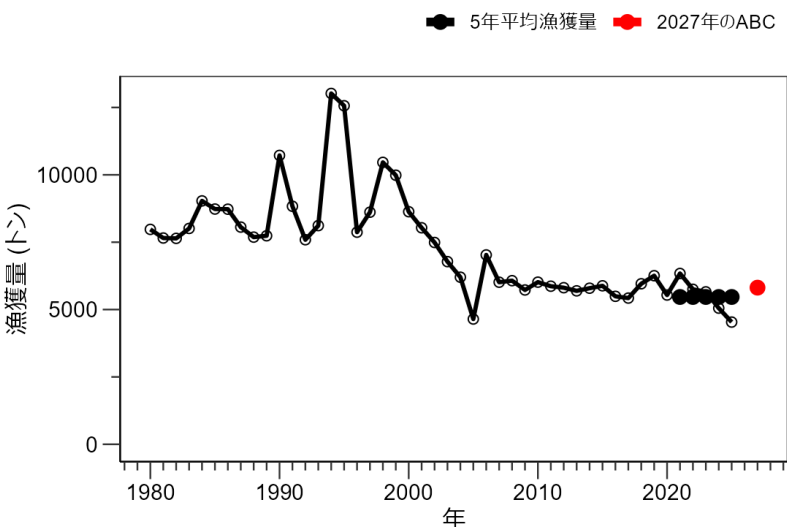


図9 漁獲量の推移と2027年のABC

直近5年間（2021～2025年）の平均漁獲量（黒丸、5,535トン：2024年は補正值）に2025年の資源水準から求めた漁獲量を増減させる係数（1.063）を乗じて算出される2027年のABCは5,885トン（赤丸）となった。なお、ABC算定に用いた直近5年間の平均漁獲量のうち、2024年の漁獲量（5,390トン）は、令和6年能登半島地震の影響を考慮し、新潟県と富山県の漁獲量にそれぞれ281トン、56トン（各県について、震災による努力量減少の影響で減少したと推測される漁獲量）を加算した補正值である。

	資源水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値
目標管理基準値（目標水準）	80.0%	1.000	466,162
限界管理基準値（限界水準）	56.0%	0.887	405,729
現状の値（2025年）	92.3%	1.063	517,024

資源量指標値の推移から求めた資源水準と目標管理基準値および限界管理基準値との位置関係に基づき漁獲量を増減させる。
2025年の資源水準は92.3%であり、漁獲量を増減させる係数は1.063となった。2027年のABCは5,885トンと算出された。